1月 さいとう内科・循環器クリニック通信

Vol.28
2022年1月

住所：東京都中央区日本橋大伝馬町13-8
メディカルプライム日本橋小伝馬町3階
TEL：03-3639-3110　FAX：03-3639-3112

2022年1月　診療カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
2	3	4	5 *診療開始	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31	1	2	3	4	5

ホームページ
院長ブログ公開中

2022年2月　診療カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
30	31	1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	1	2	3	4	5

休診日　午後休診　18時最終受付

一般外来	9:30-12:00	16:00-19:00
発熱外来	12：00-13:00	15:30-16:00

「今月の言葉」
僕等は別々の山を　それぞれの高さ目指して
息もつがずに登ってゆく　山びと達のようだね
さだ まさし（歌手）

＜今月の予定＞

●1月13日（木）　18時最終受付
●1月29日（土）　9:00～11:00　診療時間

あけましておめでとうございます

新年明けましておめでとうございます！

先日関東でも珍しく積雪があり、一夜にして銀世界となりました。皆さまは転倒してお怪我などはありませんでしたか？私は学生時代に札幌で暮らしていましたので、「雪には慣れっこで、まったく平気」・・などと書くといわゆる「雪国マウント」とひんしゅくを買ってしまいかねないので、やめておきますが、今後も雪が降る可能性があります。皆さん、どうぞお足元にはお気をつけください。

ところで皆さまは、年末年始はいかがお過ごしでしたか？
我々家族は毎年ワンパターンですが、大晦日はNHK紅白歌合戦とテレビ東京のジルベスター・コンサート、年始はウイーンフィルのニューイヤー・コンサートを観ました。ジルベター・コンサートには最近我が家で「推し」のピアニスト、阪田知樹さんが出演したこともあり夜遅くまでＴＶの前で楽しく年越ししました。いずれも今回は観客を入れての公演でした。やはりお客さんがいると画面越しにも会場の熱気と人々の高揚感が伝わってくるものですね！

それから、急遽出演が決まりましたＮＨＫＢＳ１スペシャル「私たちのデジタル医療革命２０２２」ですが、遅い時間でしたがご覧いただけた方はいらっしゃいますか？再放送がある予定ですので、見逃された方はよろしければ是非ご覧ください。
【ＢＳ１】1月20日（木）　前半9：00～9：50　後半10：00～10：49（後半に出演します）

それにしても紅白歌合戦の出場者、曲目を見ても自分が聞いたことのない歌手、歌が多く、その日初めて聴くような歌も増えました。私が子どもの頃に観ていた紅白歌合戦には若手からベテラン歌手まで聞いたことのない歌手はあまりいなかったように思います。最近ではヒット曲といっても日本中の幅広い世代に浸透しているヒット曲というのは少ないように思います（自分が流行に疎いだけなのかもしれませんが）私が小さいころのアイドルといえば男性では野口五郎・郷ひろみ・西城秀樹など、女性ではキャンディーズやピンクレディーで、その歌や踊りは誰もが口ずさむこともあるほど子供から年配の方々まで広く受け入れられていたように思います。私が中学生のころは「さだまさし」・中島みゆき・松山千春などいわゆるニューミュージックの流れが人々を熱狂的な虜にしました。　ラジオをつけると彼らの歌が流れてきて、夢中になってラジオのエアチェックをしたことを今でも懐かしく思い出します。

いまでもYouTubeで彼らの懐かしい映像を見ると、当時のことをよく思い出します。暮れの紅白歌合戦では「さだまさし」さんが『道化師のソネット』を歌っていましたが、この曲はまさに私が子供のころにお小遣いで購入したLPレコードに収録されていた曲で当時から大好きな曲でした。

ご存知の方も多いと思いますが、この曲はキグレサーカスのピエロとして活動していた栗原徹さん（享年28歳）が、綱渡りの最中に転落死してしまったという実際にあった話をもとに作曲された歌です。栗原徹さんはもともとサーカスの団員ではなく、本業は写真家でした。サーカスの撮影をするには、サーカス団員の気持ちを理解し、入り込まなくてはと自ら団員に志願してピエロになりました。事故がなければ翌年にはサーカスを辞めて、写真を撮るため海外に渡る予定になっていました。本当は写真家なのにも関わらず、サーカス団員になったり、ピエロなのに危険な綱渡りをしたり、綱渡りにセーフティーネットをつけないなど、どうしてそのようなことをしたのかと疑問に思うのですが、ピエロを真剣に追及しようとした彼の生き方がそこにあったということなのでしょう。

『道化師のソネット』の２番の歌詞には「僕らは別々の山を　それぞれの高さめざして」という歌詞があります。最近このフレーズの意味合いの深さ、重みをしみじみ感じるようになりました。若いころは何でも「早く早く、上を上を」と躍起になって上を目指し、自分よりも優秀な人を羨ましく思ったり、その反対もあったり、今振り返ってみれば意味のない劣等感や優越感に心ががんじがらめになっていたように思います。考えてもみれば、我々ひとりひとり、登っている山がそれぞれ違うこと、目指す高さも、谷の深さも違うのは当たり前で、道のりを歩く速さ、山を登るスピードも高さも比較すること自体ナンセンスだということを最近実感しています。そのことを20代で歌詞にした「さだまさし」はやはり天才だと思います。

2022年、皆さまは新しい年のスタートにあたり、どのような抱負をお持ちでしょうか？当院は開院して今年の6月でおかげさまで丸３年が経ちます。開院して以来２年以上もコロナ対応に翻弄され、思い描いていたような医療がなかなかできず、歯がゆさを感じることも少なくありませんが、今年はクリニックがより身近に感じられるよう、皆さんの健康づくりのより一層のサポートができるよう、新たな試みやアイデアも温めています。

本年も昨年に引き続きどうぞよろしくお願いいたします
クリニック通信もあわせてよろしくお願いいたします。

文責　齋藤　幹